

8カ国のジュニアセーラーが一堂に！ 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012が開催されました



大型連休の後半、5月3日(木)～6日(日)の4日間にわたり、開通したばかりの東京ゲートブリッジを望む東京都若洲ヨット訓練所において「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012」が開催されました。この競技会は、国内クラブと海外のジュニアセーラー達が一堂に会することにより、帆走技術やシーマンシップを競い合うだけでなく、国内外チームが交流を深めるとともに、参加者の国際感覚を磨き視野を広げることを目的としたものです。

競技会では、OP級を中心にレーザー4.7、ミニホッパー級、420級、FJ級の各クラス別に競技を行い、7カ国21名の海外選手と国内20クラブ84名のジュニアセーラー達が、真剣ななかにも和気あいあいと腕を競い合いました。



観覧艇の上でも国際交流の輪が広がっていました

今回の大会では、大型のクルーザーが観覧艇として活躍していました。歓迎の気持ちを込めたタイの国旗を掲げた観覧艇の名前は「Mai Pen Rai」。船名はタイ語で「気にするな、大丈夫・・・」といった意味と教えてくださったのは、艇のオーナーの神谷さん。神谷さんと共同オーナーの増川さんは、「タイクリニック」という活動を2004年から取りまとめている方々です。タイクリニックとは、日本のOPセーラーがタイのヨットの訓練施設を訪れて、現地の子どもたちと合宿しながらセーリング技術を学ぶとともに、国際的な視野を持ったセーラーとして育てて行くことを目的とした活動。JJYUも今年初めて選手を派遣しました。そんな交流の結果、この競技会にタイの選手が初めて参加してくれることになったのです。

神谷さんによると、競技会の期間中、船上は各国語の声援が飛び交い、とても賑やかな雰囲気だったとのこと。レースだけではなく、会場のあちらこちらで国際交流が深まっている、そんなことを実感した観覧艇船上でした。

